

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀、渡邊聡明

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

本年 4 月より大腸癌の化学療法の新たな分子標的薬が保険適応となり、再発大腸癌の治療において従来から指摘されてきた、いわゆる drug lag の問題が解決されようとしています。ここ 10 数年の間に大腸癌に対しては様々な薬剤が開発され、治療成績が向上してきました。これらの薬剤のなかには、わが国で開発された薬剤もありましたが、こうした薬剤も海外では使用できるのに、わが国では使用できないといった皮肉な問題も発生していました。再発大腸癌の治療において、海外に遅れをとっていったわが国もようやく同じスタートラインに立てたということは、今後の治療に大きな影響を与えることと思います。このような大腸癌の化学療法の問題をみてもわかるように、海外とわが国では、治療上様々な相違点があります。特に外科治療においては、わが国の患者の海外との体型の違い、外科医の手術に対する考え方の違いなど、様々な背景の違いがあると思います。そこで今回は、外科治療におけるわが国と海外との相違点に注目して各臓器の癌治療の特集を組みました。今回の特集では、消化器、内分泌、呼吸器など様々な疾患において海外とわが国との間に差があることが示されています。Evidence based medicine (EBM) の重要性が唱えられていますが、evidence レベルが高い randomized controlled trial の多くは海外で行われ、その結果が報告されているのが現状です。このため、evidence レベルのみに注目すればとかく海外の臨床試験に準じた治療がいわゆる EBM に基づいた治療と考えられがちです。しかし外科の領域においては、従来わが国が海外をリードしてきた分野があるのも事実です。こういった違いを十分認識して海外からのデータを解釈、利用しないと、わが国の実情に合った治療は行えないと思われます。そういった点からは、本特集で紹介されているわが国の外科治療の様々な特徴を認識しておくことはきわめて重要なことと考えられます。わが国と海外の相違点を十分理解したうえで、最適な日常臨床を可能とするために、本特集がお役に立つことを期待しております。

(渡邊聡明)

臨床外科 (第 65 巻 第 6 号)

発 行 株式会社 医学書院
代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
☎ 社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2010 年 6 月 20 日発行 (毎月 1 回 20 日発行)

定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)

2010 年年々ぎめ予約購読料 40,160 円
電子ジャーナル閲覧オプション付 52,200 円
増刊号を含む 13 冊、税込、送料小社負担

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail : ringe@igaku-shoin.co.jp

担 当 田村・阿部・安部
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 日本医学広告社 電話 (03) 5226-2791

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **JCOPY** (株)出版者著作権管理機構 委託出版物
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。